

令和5年度 第3回川崎市社会教育委員会会議麻生市民館専門部会 摘録

■日時 令和5年10月11日（水） 午前10時00分～正午

■場所 麻生区役所 第4会議室

■出席委員 麻生区地域教育会議議長（部会長） 井上 俊夫
麻生区文化協会副会長（副部会長） 横川 博行
麻生市民館サークル連絡会会長 菅原 陽子
市民委員 徳田 富美恵
市民委員 田澤 梓
和光大学現代人間学部非常勤講師 角田 季美枝
麻生区PTA協議会副会長 角南 ゆり絵
（欠席）川崎市王禅寺中央中学校長 山本 浩之
（欠席）麻生区町会連合会理事 松島 糾之

■事務局 麻生市民館齊藤館長、管理担当内藤担当係長、社会教育振興係江上係長、田中職員、
麻生市民館岡上分館相澤分館長

■傍聴者 2名

■議事等

- 1 開会
- 2 館長挨拶
- 3 議事
 - （1）令和5年度事業進捗状況について
 - （2）令和4・5年度報告書（案）について
一箱古本市の実施結果報告
 - （3）その他

3 議事

(1) 令和5年度事業進捗状況について

事務局（江上係長、内藤担当係長、相澤分館長）資料に基づき説明

角田委員）

麻生市民館の高齢者セミナーは人気なので、人数が先着20名ではもったいない。人数を増やして大会議室で行うなど工夫はできないか。また、工事等の実施計画で予算が空欄になっている。分かったら教えてほしい。

事務局（江上係長）

高齢者セミナーについては、毎年多くの方にご参加いただいているので、より大きな会議室で行うことも考えているが、会議室の利用が多い時期でもあり、空き状況とセミナー開催日のタイミングが合わなかった。今後は多くの方に参加いただけるよう、会議室確保の際に考慮したいが、今回については会議室変更は難しい。

角田委員）

大会議室も空きはないのか。

事務局（齊藤館長）

セミナーが座学だけならばよいが、実習もあるため講師の目の行き届く範囲や人数も考慮していかなければならず、ある程度場所と人数は制限を設けざるを得ない。

角田委員）

他の公民館では、参加する人は座学より身体を動かすほうに興味があるようである。一人の講師が見られる範囲が限られるのはよく分かるが、アシストする人を増やすなど、多くの方が参加できる工夫を考えてほしい。来年度以降でもよいので倍の人数を受け入れられるよう検討してほしい。麻生区は健康長寿日本一なので、みなさん健康に関する講座は関心が高いと思う。

事務局（内藤係長）

工事等実施計画において、LED化工事のみ予算が確定したが、詳細な金額は把握していませんので、後ほどお伝えする。

菅原委員）

保育ボランティア研修について、以前は保育ボランティアさんを活用させていただいたが、最近活用してない。この研修を受けられた方が、またボランティア活動されるようになることを期待している。研修を終えた方は、市民館の中での活動に限られるのか、他の新しいグループや団体をつくってそこで活動できるのだろうか。保育ボランティアが消滅していた時期があったように記憶しているが、その時期に独自でボランティアをやっていた方に、市民館が間に入ってボランティアグループや団体を紹介し

ていたことはあったか、教えてほしい。

事務局（江上係長）

現在は、市民館保育として、保育ボランティアのジャンケンポンさんに保育ボランティアをお願いしている。本研修は、保育ボランティアとしてジャンケンポンさんに入っていただく方だけを対象としているわけではなく、区内で幅広く保育ボランティアをやっていただける方も対象としている研修である。保育ボランティアが消滅していた時期の経緯については、市民館では把握していない。

（２）令和５年度報告書（案）について

事務局（内藤係長、江上係長）「市民館の利用促進に向けた取り組みについて」資料に基づき説明

井上部会長）

一箱古本市について、今までは市民館の事業として職員がおこなってきたが、どのようにして移行していくか、指定管理制度導入もあるため、向こう２年先までに決めておかないといけないと思う。

事務局（江上係長）

出店者の中には、お声掛けすれば運営に関わってくれる方もいるかもしれない。また、図書館関係の団体等にも声掛けできる可能性はある。

井上部会長）

職員から外へ移行していくのも一大事業かもしれない。

角田委員）

市民館と図書館に同時に指定管理制度が導入されるので、それを見越して市民の間で実行委員会を募るなどの対応を今のうちに検討してもよいのではないか。そのきっかけとして古本市を事例に挙げれば話がつながりやすいと思う。

菅原委員）

中庭スペースの有効活用について、人が夢を持てるような企画や利用方法を検討したいと提案してきたが、１０年過ぎてようやく実現した。企画で工夫して実現したことを、実際の利用者が真に感じるのには５～１０年かかる。この期間を見据えて有効活用について検討していきたい。

角田委員）

中庭スペースの有効活用の検討は、今年度で終わりか。

事務局（齊藤館長）

今回は、市民館事業の一つとして中庭スペースを使った古本市をおこなった。普段から、中庭スペース

は一般の方に開放している。そのなかで何かの行事に使えないかとのことで、一箱古本市をおこなった。これからも中庭の有効活用を考えていきたい。

角田委員)

今年度で終わりであれば、今後の中庭スペースの有効活用について皆さんからアイデアを聞いてみるのもよいのではないかと。報告書について、表紙にサブタイトルとして「一箱古本市」を追記いただきたい。また、p7のタウンニュース麻生区版や東京新聞などへの「掲載日」の記入、p11の徳田委員の感想資料において「住民委員」とあるのは「市民委員」へ修正願いたい)の修正及びアンケート協力のお礼としてクリアファイルだけではなく「しおりも」を追記いただきたい。「しおり」は当日、家族と参加していただいた。さらに、p12に、「4 今後の展開について」を追記いただきたい。出店者からのアンケート結果で「陽射しが強かった」「暑い」などがあったが、開催時期などを今後改善していくようなコメントを入れたほうが良いのではないかと。

事務局(齊藤館長)

開催時期については、単独開催であれば調整は可能であるが、他のイベントに合わせた開催となると、古本市事業で日程を決めるのは難しい面がある。本事業を今後定期的にやっていくのか決まらない中で、開催時期についての改善明記は難しい。

角田委員)

空きスペースの有効活用は、古本市に限らない。市民館職員の負荷の問題、人の流れの問題、何をやるのかの問題もあると思うが、開催時期、イベント内容、市民館職員の働き方も考慮しながら継続して考えていただきたい。

事務局(齊藤館長)

明確に実施する可能性がなければ書きにくいですが、今後の活用については、委員の皆さんからコメントの形で、報告書の「おわりに」に書いていただくほうがありがたい。

井上部会長)

事務局作成の報告書に、委員の意見や今後の展望のようなものを追加でまとめて完成させてはどうか。

田澤委員)

報告書の目次には「4 今後の展開について」の項目があるが、本文のどこに記載があるのか。

事務局(江上係長)

P12が「4 今後の展開について」の記述に該当する。本文中から抜け落ちており、大変申し訳ない。

井上部会長)

P12は見出しがないが、このページを「4 今後の展開について」とし、委員は「はじめに」と「おわ

りに」を書いてはどうか。

事務局（江上係長）

報告書の「はじめに」「おわりに」「編集後記」は委員のみなさんに書いていただきたい。

井上部会長）

「おわりに」は、古本市についてだけではなく、この2年間行ってきたことを感想として委員の皆さんに書いてもらう。

菅原委員）

事務局で書いていただいた今回の報告書を委員各自が持ち帰って、再度専門部会の委員の目で見直してみたらどうか。

角田委員）

各委員の意見で終わるのではなく、中庭の有効活用や市民館の利用促進といった課題に対して、今後に向けた提言を書く必要があるのではないか。「おわりに」は従来のように全員が書いてもらい、「提言」と「はじめは」どなたかに書いてもらう。

角田委員）

原稿はいつまでに完成させなければならないか、期限はいつか。

事務局（齊藤館長）

確定版ができるのが3月末。次回の専門部会は年明け2月17日なので、そこで最終原稿として皆さんにご確認いただく形をとるのであれば、1月末までにはある程度形としてまとまった形が望ましい。

角田委員）

報告書をまとめる会として、臨時に集まって対応することは難しいか。まとめをどうするかは、集まって議論するのが筋ではないか。

井上部会長）

委員各自が、今回の報告書を受け、古本市実施の感想や、今後の有効活用についての展望を半ページくらいにまとめていただき、12月末までに市民館に提出していただく。そこから情報共有し、専門部会としてまとめていくこととする。各自作成いただくもののほか、「おわりに」、「まとめ」、「提言」を含めた全体的な話を書く必要がある。たたき台は私が作成する。

角田委員）

編集後記も各自原稿をつくるのか。

井上部会長)

各委員に原稿を作っていただく。

(3) その他

○専門部会勉強会の議事要約(資料 2-2)について

事務局(齊藤館長)

まとめかたとして、これでよいか、報告書全体のバランスを考えもう少し簡略化させたほうがいいのか、委員の方の意見を聞きたい。

角田委員)

ページを増やすのは駄目だろうか。アンケートの結果を紹介したい。全体で何ページくらいがいいかの目安はあるのか。

事務局(齊藤館長)

特にページの制限はない。制限を設けることにより内容が中途半端となってしまうようまとめているだけがあればありがたい。

○事務局(内藤担当係長) 令和 5 年度公民館館長・公民館運営審議会委員等研修会の開催について 説明

○指定管理制度導入に関する勉強会について

角田委員)

前回の専門部会で、次回は指定管理者制度についてどのように勉強会を行うかの話をしたが、本件について話し合いたい。3月までにまた勉強会を開催するということになるのか。今回の報告書の提言をまとめるときにあわせて、指定管理制度について話し合うのか、この勉強会について今後どうしていくのか議論したい。

徳田委員)

専門部会としての勉強会ということか。

角田委員)

専門部会としてでなくてもよいと思う。専門部会の勉強会のアンケート調査でもわかったように、指定管理制度導入については知らない人が多いので、市民館や図書館を利用している人たちも含めて勉強会をしてもよいのではないかと考えている。私自身、指定管理制度が導入されるとどうなるか、市の社会教育委員会議や市民が行った説明会に参加しているが、具体的なことは全く分からない。何が変わるのか皆さんで疑問を出し合い、市が出している資料で話し合うべきではないか。指定管理者制度について知りたいこと、分からないこと、麻生区らしい市民館の指定管理とはどんなものかなど意見を出し合ったほうが良いのではないかと。

井上部会長)

専門部会としては、指定管理者制度についての勉強会は考えていない。麻生区らしい市民館がつくれればいいと考えている。指定管理者制度導入に向け、どこまで専門部会の活動として取り組むかは、一つのテーマとして考えなければならない。

令和4・5年度の報告書については、指定管理については勉強したとの結論でよい、と考えている。ただ皆さんが今後も続けていきたいとの意見があれば継続検討について考えていく。

菅原委員)

麻生市民館の専門部会の委員の立場から考えると、指定管理者制度導入を知った以上は、見過ごすわけにはいかない。専門部会で一時、指定管理制者度について勉強会をやろうと提案したが、専門部会としての意見等が議事録に残ることもなく、うやむやのままである。委員の皆さんの置かれている役職は十分理解しているが、専門部会の一員として出てきた意見については、専門部会の一員として個人的にはこう思うなど、正面から取り組むなどの意志を示すべきと考えている。指定管理者制度について専門部会の中で考えるものではないと決めつけるのではなく、制度移行について専門部会で勉強会を行って、それぞれの専門部会の一員として意見を言うほうがよいのではないかと。

徳田委員)

指定管理者制度については、分からないこと、決まっていないことが多い段階で勉強会をするよりは、麻生区らしいとはどんなことかについての勉強会をやったほうがいいのかと考えている。麻生区の雰囲気を感じながら市民の方が求めていることは何かを考えていくべきではないかと。

菅原委員)

麻生区らしさということだが、多摩区から麻生区になって、地域の皆さんがいろいろなイベントを積み重ねて今の麻生区をつくってきた。麻生区らしさの一つに、きちんともものを見て、きちんと発言する、議論しながら前進してきたことが挙げられると考えている。指定管理者が決まってから考えるという方法もあるが、導入が決まっており麻生区の指定管理者が決まらないからこそ、どうなるかどう思うのかを考える機会があってもよいのではないかと。

角田委員)

指定管理者制度導入で、何をやるか決定していることもある。決定していないから話ができないということはない。社会教育については、市民と行政が一緒になっていいものを作っていこうと活動しているが、そこに指定管理者が入ることになる。「川崎市の市民館・図書館への指定管理者制度の導入に向けた検討状況について」という教育委員会の資料でも、モニタリング等で市民の意見は聞くといっているが、市民とは誰を指し、いつ意見として言うかはすでに決まっている。指定管理者制度を導入した他の自治体を見れば分かる。市が出している資料からすると、今後は市民が楽しめる講座を受けられればいいやで終わっていいのかが、問われていると思う。今の資料をベースに、ここはどうなるのか、もっと知りたいことなどをまとめておいたほうがいい。社会教育はボトムアップ的なところがあるので、麻生

区らしさへの市民館の関わりとは何だろうかという視点から、川崎市の制度を見つめ直し、良くするためにはどうしたらいいか意見を伝えることはできるのではないだろうか。国が指定管理制度を導入して20年になるが、これまでに様々な問題点に対する意見がでている。そういう意見を知りつつ、新たな指定管理者制度導入を進めていけるのが川崎市のいいところ、と川崎市長が言っている。方針として、市民館・図書館に指定管理者制度を導入することを遅らせた理由は、先行して導入したところの状況を反映でき、問題点を解決できるからであり、この点を把握しておくことも重要である。今年度中に、指定管理者制度について今の資料を読んで、知りたいこと、分からないことを専門部会で共有整理するべきと考える。

田澤委員)

専門部会は、市民館を利用する人たちにとって、市民館が使いやすい、あるいは活動できる場としてどう存在していくべきかを市役所・市民館の方と協議していく場であると理解している。委員としてこの会議に参加している以上は、一委員として指定管理制度導入についてしっかり意見を言うべきだし、しっかり考えを持って活動していきたいと思っている。ただ、指定管理者制度についての勉強会や一箱古本市開催などの専門部会の活動そのものが、市民に周知されておらず、また響いていないのではないかと考えている。その中で、ここで話し合っていくことが市民に対して影響力あることなのだろうか。指定管理者制度についての勉強会については、専門部会で話し合ったからといってひっくり返るわけでもなくそのまま進む。専門部会と市役所と指定管理者が今後どういう関係を築いていくか、専門部会の存在意義も含めて考えていかなければならないと考えている。そのためには指定管理者制度とはどういうものか、どんな問題があるか、一委員として理解しておくべきと考えている。理解したからと言ってそれが周りの人たちにどれくらい影響を与えるかは定かではなく、疑問でもある。理解するのが勉強会なのか、専門部会での会議の中での情報共有なのか勉強会の方法はいろいろあるが、ボリュームがある課題なので、影響力があるか否かわからないことに多くの時間を割くのは正直大変である。

角南委員)

専門部会の委員就任一年目で勉強中であるが、委員として意見や意思を持っていかなければ思っている。また、麻生区のいろいろな活動にかかわっていき、いろいろな勉強をしていきたいと思っている。今年度はPTA家庭教育学級の活性化に取り組んできたが、昨今各学校での家庭教育学級の開催が難しい状況となっている。次年度の向け、麻生区の特徴を生かしたPTA活動の活性化に取り組んでいきたいと考えている。

横川副部長)

指定管理者制度については、難しくて分からないことが多いと感じている。文化協会としてみると、区民まつり等のイベントやその他活動を活発に行っており麻生区は活力ある方向に向かっているのだろうと思っている。行政がいろいろなことをやりすぎているように感じている。指定管理者制度の導入については、一つの大きな方向なのでやるしかないが、やってみて、経済効果が出ない・市民からのクレーム等でダメな場合、戻せるのか分からない。指定管理者制度については、分からないことが多いので、今の段階で自身の意見としてまとめるのは難しい。

菅原委員)

専門部会で取り上げたことを進めて実現させるには、長時間を要するもの、短期間で成し遂げられるものがある。今回の指定管理者制度についての勉強会は短時間で検討し、不安なこと、疑問点、問題点などを提言という形でまとめ上げなければならない。提言したからと言って方向が変わるわけではないが、専門部会の活動として残しておくべきである。提言はいつか報われるものであると思う。

角田委員)

勉強会について、どこまで何が決まっているかぐらいは専門部会として共有しておいたほうがいいと思う。12月に報告書をまとめるときに、少しでも共有できたらいいと考えている。また、委員の皆さんは各方面の団体に属しているので、委員の皆さんが先生となり団体向けに情報提供をおこない、団体ごとに指定管理者制度について知りたいこと、疑問点など考えていただけたらいいと思う。指定管理者制度導入は決定事項なので、その次のステップとして、いかに指定管理者制度をいいものにするかに移っていく。そのときに問題なのは、今何をするとか麻生区らしいとかではなく、そこで働く人達の生きがいや区役所で働く人たちに社会教育のノウハウが残るのかといった全体の問題も出てくる。ノウハウの継承の仕組みや役所の労働環境やモチベーションの維持等についても、12月に話し合えたらと思っている。

井上部会長)

指定管理者制度についての勉強会を、この専門部会でどこまでおこなうか、専門部会の活動は何かを含めて12月に話し合い、共有したい。そのうえで麻生区らしい指定管理制度の導入について、最後まで完遂できないかもしれないが提言としてまとめていきたい。次回は、報告書の件と指定管理制度の勉強会を議題に開催したい。

菅原委員)

指定管理者制度の勉強会については、限られた時間の中で、まず指定管理者制度そのものについて深く勉強しよう・膨大な資料を見ようと考えないこと。指定管理者が入ることに反対ではないことを共有しよう。市民館の中でなくなったら困る・市民館はこうあってほしいことは何かといった視点から話し合えたらいいのではないかとと思っている。

井上部会長)

次回の開催については皆さんの原稿作成状況を確認しつつ、連絡する。